

たかい山から
お寺をみれば
ご恩とうとや
たから山
妙好人 六連島のお軽



No. 97

2015年(平成27年)

11月1日

発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

片桐淨映



日高組「子どものつどい」—キッズサンガー

- ① 『御文章』というのは、蓮如さんが各地の門信徒に宛てたお手紙です。これを孫の円如さんが集めたもの(実際は実如さんが編集した)。全部で一百十九通あるのを、五巻(五帖)八〇通にまとめたのが『御文章』です。
- ② 『御文章』にはどういうことが書いてあるの。
『御文章』の性格を簡単に言うと次のようにな
- ③ 親鸞さまのみ教えは、漢文のものが多く、読み違えるし難しい。『御文章』は当時の言葉で、仮名の文章だから、読み違えない。字の読めない人に、読んで聞かせても信心をいただける。親鸞聖人の「たのむ一念」を「雑行を捨てて」と具体的に示されている。
- (永原智行)

「御文章」のお話 その一

ヒダカくん・ひかりちゃんの

ヒダカ『ひかり』の『阿弥陀経』の話は難しかったね。蓮如さんや蓮如さんの『御文章』について話そうと思つているんや。

ひかりレンニョさんと言えば、五百回遠忌法要に本願寺にお参りに行つたわ。本願寺の第八代目のご門主

で、さびさびとしていてボロボロの本願寺を新築し

はつた人で、五回結婚して。

ヒダカやつぱりちゃんと話しておかなかんみたい

やな。『御文章』というのは。

ひかりそうそう、ご法事のお経の後、「あー、やつと終わつた。さあ立とうか」と思つたら、ヒダカくんが振り向いて、ありがたーいお説教をして、その後、何やら節の付いたのを読んで、みんなは頭を下げているあれやね。

ヒダカあのねー。

『御文章』には、蓮如さんが各地の門信徒に宛てたお手紙です。これを孫の円如さんが集めたもの(実際は実如さんが編集した)。全部で一百十九通あるのを、五巻(五帖)八〇通にまとめたのが『御文章』です。

『御文章』二百十九通もあるの。これを毎月一通勉強し

たとしても、十八年もかかるわー。

ヒダカその時幾つ。

『御文章』二十歳か、二十一歳かな?

ヒダカ誰の年を数えてるの。

『御文章』ここでは代表的なものをピックアップしてお話しするから。

ひかり『御文章』にはどういうことが書いてあるの。

『御文章』の性格を簡単に言うと次のようになりますよ。

親鸞さまのみ教えは、漢文のものが多く、読み違えるし難しい。『御文章』は当時の言葉で、仮名の文章だから、読み違えない。

字の読めない人に、読んで聞かせても信心をいただける。

親鸞聖人の「たのむ一念」を「雑行を捨てて」と具体的に示されている。

(永原智行)

『入仏法要に思う』

先日、ご門徒のお宅で入仏法要をお勤めしました。ご当主は、ご分家された、次男の方でした。以前から、お仏壇をお迎えしたいと思っておられましたが、周りからは、亡くなつた方もいらないのに仏壇なんか置いてはいけないと言われ、迷われていたようです。

表白に、「・・・今日 ここにお迎え

した 阿弥陀如来のお姿は 大悲をもつて空中に住立された 住立空中尊をかたどり 摂取して捨てずと 誓われた本願のままに 念仏の衆生をお救いくださる姿であります このうえは 家族一同 阿弥陀如来を心の依りどころとし 日夜礼拝を怠ることなく報恩謝徳の生活にはげみますことを・・・」

お釈迦さまの説法に応じて、お出ましになつた阿弥陀如来を住立空中尊といいます。煩惱深き衆生を救わねばと、立ち上がられ、まさに今、一步、踏み出そうとなさるお姿であります。この阿弥陀如來のお姿をご安置したお仏壇は、家庭の

中心となり、心のよりどころとなります。亡くなつた方がいないから不要だと考えるのは大きな間違いです。ご門徒であれば、その家々にお仏壇を設けるのが本来のあり方です。

ただ、お仏壇を中心とした暮らしといつても、生活の多様化した今日では、家族そろつて毎朝夕、礼拝するという訳にはいかないかも知れません。仕事などの関係で、同じ家に住みながら、家族が、何日も顔を合わせないということもあるかも知れません。

そんな生活の中でこそ、お仏壇を中心とした暮らしが大切になつてきます。家族そろつてお参りすることができなくても、親は親で、子は子で、朝夕、かならずお仏壇の前で手を合わせる。それは、ただ親と子が同じ行為をしているというだけでなく、お仏壇の前で、一つの思いにとけあうことになります。その思いとは感謝の心であります。

（亀井真竜）

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成28年1月20日（必着）

※発表は次号



親鸞聖人のお師匠さんは誰でしょう？
次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 聖徳太子
2. 法然聖人
3. 蓮如上人

96号の正解は、

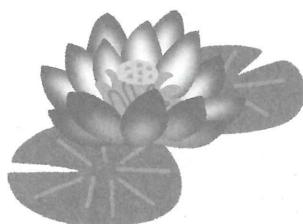
「2. 仏さまのお心を光明で味わう」でした。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由 良 町 久保千代子様	由 良 町 中崎工ミコ様
由 良 町 浜上由美子様	由 良 町 大浦 洋子様
由 良 町 濱口 直子様	由 良 町 上道千津代様
由 良 町 松下 正勝様	由 良 町 松下 光男様
日 高 町 藤原 寛様	

お彼岸

お彼岸はインドにも中国にも見られない日本独自の風習ですが、「彼岸」という言葉自体は仏教用語です。我々の住んでいる迷いの娑婆世界「此岸」に対する向こう岸「彼岸」、すなわち仏の世界に至ることを意味します。(到彼岸) そしてそのために実践しなければならない修行「布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の波羅蜜のこと」に勤しんだ期間とされています。しかし、それがなぜ先祖供養のための日になり、特に春分・秋分の日を中心とした期間を定めて、強調されるようになつたかについては諸説あります。時間がよく、太陽が真西に沈む時期故に、西方極楽浄土の阿弥陀仏を礼拝するのに相応しいからといわれる説が有力です。



(湯川千秋)

期間だと述べましたが、私たちの浄土真宗では、我々凡夫は煩惱にさえぎられ、自力で修行し善を積むことは出来ないというみ教えです。阿弥陀さまのお念佛のみ教えによって救われる私たちは、仏道修行が出来る身ではないのです。したがってお彼岸は阿弥陀さまのお徳を讃え、み教えに遇う大切なご縁としていただ

くのが良いでしょう。日高組各寺院では「彼岸会」が勤められていますので、法要に参拝し日頃忙しいわが身を振り返り、仏教の教えを聴聞されることはいかがでしょうか。お墓参りだけでは得られない何かに気付かれることがあります。

淨土真宗の開祖、親鸞聖人さまは、自らの修行や努力では成仏できない存在であることを見抜き、阿弥陀如来のご本願に出逢うことこそ私が救われる道であることに気付かれました。

改めてお仏壇を拝見してみましょう。ご本尊、阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)ですね。それ以外の仏さまなど安置していませんか。浄土真宗は「弥陀一仏」を礼拝の対象とします。

（鈴木悟峰）

私は九字名号「南無不可思議光如來」を安置すると、とり決められています。

門徒心得

「ご本尊」

淨土真宗のご本尊は、阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)です。阿弥陀如来の木像や絵像、あるいは名号を礼拝の対象としています。

人さまは、自らの修行や努力では成仏できない存在であることを見抜き、阿弥陀如来のご本願に出逢うことこそ私が救われる道であることに気付かれました。

改めてお仏壇を拝見してみましょう。ご本尊、阿弥陀如来は、私たち迷いの衆生を救おうとして仏になられた仏さまです。私が阿弥陀仏の願い(誓願)を聞信し、お念佛申させていただくご宗旨なのです。

※いつも「門徒心得」を楽しんで読ませていただいている。知識が身についてうれしいことです。私は那賀郡生まれで、若い頃は働くことで、浄土真宗の事はあまり知りませんでしたが、父、母、夫を亡くし、「ひかり」やお寺参りでいろいろ身につけています。

読者の声

(鈴木悟峰)

左側に蓮如上人の御影、又は九字名号「南無不可思議光如來」を安置すると、とり決められています。

※私は由良町の蓮専寺の御住職様や坊守様に大変お世話になっています。「ひかり」を持ってきて下さるのを毎回楽しみにして読ませていただいていますが、忙しいときはつい読み逃してしまうこともあります。これからも楽しみにして待っています。

※今年の夏は、格別の暑さで心身共に大変な夏でしたが、無事に今年も秋彼岸を迎えるれます。ありがとうございます。これからも楽しみにして待っています。

蓮専寺報恩講

詩吟「親鸞聖人」より始まる

十一月二十九、三十日の蓮専寺御正忌報恩講は、責任役員の中谷信義さんの詩吟『親鸞聖人・雪中布教の図に題す』より始まった。中谷さんはご開山様の正面に向かい着座。音楽が流れる中、朗々と吟じていきます。

袂に入れよ

西の風

みだのくにより

吹くと思えば、

約四分の詩吟の後、

正信偈『五十六億七千万』のご和讃六首引き。

山口県の深川倫雄

和上が「古来、地方

によつては、ご開山

様ご命日・御正忌報恩講は『五十六億』のご和讃を大切に用いる」と仰っています。

そのあと当日、布教使の都合により、

当山住職が詩吟の内容が関東二十四輩



『枕石寺』・倉田百三の戯曲『出家とその弟子』であること、登場人物、日野左衛門頼秋がご開山のご門弟

第八段『入西鑑察』にてくることを受け御絵伝の絵解き法話・一座二席のおとりつぎがあつた。

先人達が「何を忘れてもご開山親鸞聖人のことだけは忘れてはならぬ」と毎年

大切に御正忌報恩講がおつ

キッズサンガ「子どものつどい」が開催されました。

キッズサンガは子どもだけの行事ではなく、まさに

「仮の子」総代会・仏教婦人会・寺族青年会・寺族婦人会など様々な年齢層の皆

さんがお寺につどい、主役の子どもたちとともに楽し

いゲームや仮さまのお話を

聞くことで「遊び・学び・

ふれあう」大切な機会であ

ります。

今年も児童二十五名と前述の教化団体の皆さんはそ

の倍以上の五十数名が参加

しての盛大な集いとなりま

した。

日高組通信

☆行事報告

・キッズサンガ・N光寺

八月二十二日（土）由良

町里 光専寺に於いて、日

高組主催平成二十七年度

キッズサンガ「子どものつどい」が開催されました。

キッズサンガは子どもだけの行事ではなく、まさに

「仮の子」総代会・仏教婦

人会・寺族青年会・寺族婦

人会など様々な年齢層の皆

さんがお寺につどい、主役

の子どもたちとともに楽し

いゲームや仮さまのお話を

聞くことで「遊び・学び・

ふれあう」大切な機会であ

ります。

今年も児童二十五名と前

述の教化団体の皆さんはそ

の倍以上の五十数名が参加

しての盛大な集いとなりま

した。

総勢二五〇名を超える門徒が集いました。
徒が集いました。
本願寺布教使で大阪教区の戸川教宏師より『阿弥陀さまはあたたかい』と題してお参りいたしましょう。

第25代専如門主 伝灯奉告法要

日高組参拝日が左記の通り決まりました。ご法縁です左記日程にならつてお参りいたしましょう。

一班 教専寺 平成28年10月8日（土）
二班 長覚寺・一行寺 円照寺 平成28年10月23日（日）
三班 妙願寺 平成28年11月5日（土）

四班 衣奈・白崎・
由良地区寺院 平成29年3月12日（日）

五班 志賀・
比井崎地区寺院 平成29年3月26日（日）

六班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

七班 教専寺 平成29年3月26日（日）

八班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

九班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十一班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十二班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十三班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十四班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十五班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十六班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十七班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十八班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

十九班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）

二十班 阿戸・教専寺 平成29年3月26日（日）



・第7回連研

日時 2月6日（土）

会場 午後1時30分から4時

内容 若林 真人師

・日高組「真宗法座」

・正信偈について I

・正信偈について II

・正信偈について III

・正信偈について IV

・正信偈について V

・正信偈について VI

・正信偈について VII

・正信偈について VIII

・正信偈について IX

・正信偈について X

・正信偈について XI

・正信偈について XII

・正信偈について XIII

・正信偈について XIV

・正信偈について XV

・正信偈について XVI

・正信偈について XVII

・正信偈について XVIII

・正信偈について XIX

・正信偈について XX

・正信偈について XXI

・正信偈について XXII

・正信偈について XXIII

・正信偈について XXIV

・正信偈について XXV

・正信偈について XXVI

・正信偈について XXVII

・正信偈について XXVIII

・正信偈について XXIX

・正信偈について XXX

・正信偈について XXXI

・正信偈について XXXII

・正信偈について XXXIII

・正信偈について XXXIV

・正信偈について XXXV

・正信偈について XXXVI

・正信偈について XXXVII

・正信偈について XXXVIII

・正信偈について XXXIX

・正信偈について XXXX

・正信偈について XXXXI

・正信偈について XXXXII

・正信偈について XXXXIII

・正信偈について XXXXIV

・正信偈について XXXXV

・正信偈について XXXXVI

・正信偈について XXXXVII

・正信偈について XXXXVIII

・正信偈について XXXXVIX

・正信偈について XXXXVI

・正信偈について XXXXVII

・正信偈について